

平成30年度平塚市子ども・子育て会議
第1回子育て支援事業推進部会 会議録

日時：平成31年3月18日（月）午後1時30分～午後2時45分

場所：平塚市役所本館7階 720会議室

1 議題

(1) 平成30年度平塚市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価

ア 基本施策（市の取組み）

資料「平成30年度暫定版 事業評価シートまとめ～基本施策（市の取組み）～」
（計画第4章部分）、「平塚市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価（暫定版）」
に対する御意見について」に基づき、事務局から各事業における評価と今後の事業
展開等について説明を行った。

【質疑応答は次のとおり】

基本目標1

委員から意見なし。

基本目標2

・2 (1) 2 ファミリー・サポート事業

委員：事業内容を詳しく教えてほしい。来年度の新入生の保護者から学校に問い合
わせがあった。親が早く出勤するので、集団登校で集まるまでに預かってもら
うことはできるのかという内容だった。支援してくださる方が地域にいるのか
把握できる方法や事業内容を知るにはホームページを見れば良いのか。また、
依頼する方のニーズに対して支援をしてくださる方は増加するのか、見通しは
どうか。支援が充実してくると登下校の安心安全も図れるのかと思う。

事務局：ファミリー・サポート事業は、子育ての援助を受けたい方（依頼会員）と子
育ての援助を行いたい方（支援会員）からなる会員組織となっている。市が事
業を委託しており、ファミリー・サポート・センターで会員同士をマッチング
している。支援会員は市内全域にいるが、地域によってその人数は異なる。

事業周知は、案内を小学校の入学説明会時に配布したり、保育所や公民館、
保育課窓口などに配架したり、また、ホームページに掲載をしている。

依頼会員は子どもの預かりなどを、近くに祖父母など援助してくれる人がい
れば、祖父母などをお願いすることもあるようだが、近くにいない場合や近く
にいても負担軽減などの点から、万が一に備えて登録している人もいる。

支援会員について、以前は子育てに一区切りがついたような40～50代の
方がなられていたが、最近はその年齢層の方が就労されている傾向がある。そ

のため、60代以上の方にも支援会員になっていただけないかとPRしているところである。また、以前、依頼会員だった方に対して支援会員になっていただけないかと声を掛けている。

・2(1)12 私設保育施設等交流事業

議長：事業評価シートの検証結果が評価なしであり、今後の事業展開も廃止となっているが、これについて補足の説明があればお願いしたい。

事務局：平成27年度を以って事業を廃止している。事業の概要は、本市が定めた一定の基準を満たした認可外保育施設を認定保育施設として認定し、それらの保育施設の保育士と公立保育所が交流を行っていた。平成27年度に子ども・子育て支援新制度が開始した際にすべての認定保育施設が認可保育所に移行したため、平成26年度までは実施をしていたが、平成27年度から実施することなく、その後も本事業は行っていないため廃止としている。

議長：実施していなくても、当初計画にあったものを載せておく必要があるか。

事務局：当初計画として記載しており、平成29年度に計画の中間年見直しもあり、その時点で外すということも考えられたが、外してしまうとなくなってしまうので、あえて外すよりも当初計画の時点で事業を予定していたということを残しておきたいと考え、残している。

・2(7)3 保育所保育料の軽減

・2(7)4 幼稚園就園奨励事業

委員：幼児教育の無償化（3歳以上無償、0～2歳は条件付き）について、保護者は、今年10月から保育料（幼稚園・保育所）が無料になると思っている。実際、幼稚園では無償対象分（上限有）と実費負担分があるので、親の感覚とのギャップを心配している。また、保育所では、給食費の負担については、主食費と副食費が分かれている。その費用徴収も課題となってくる。

今後の課題欄に、平成31年10月から幼児教育・保育無償化の制度周知などを両事業ともに記載した方が良いと思う。

事務局：その辺りは国の状況に合わせて書きたいと考えている。

基本目標3

委員から意見なし。

基本目標 4

・ 4 (2) 5 子どもの安全対策の推進

委員：自分の家では、「こどもサポート看板」(黄色いサポート看板)を掛けている。

子どもが下校時に、突然の雷雨で走っていることがある。自分の家の軒先を雨宿りに使ってもらって良いと思っているが、「こどもサポート看板」を設置している所には、不審者対応のほかにもどんな時に駆け込んでも良いのか。

事務局：地域教育力ネットワーク協議会が実施主体となっており、子どもたちが事件や事故に巻き込まれそうになったとき、「こどもサポート看板」を設置している所にいつでも安心して駆け込んで助けを求められるように、地域で子どもの安全をサポートするものである。小学校1年生の保護者宛にお知らせを出した。看板によって不審者の抑止効果も果たしているのではないかと期待している。看板を設置している所には何かあったら駆け込んで良いよということで、地域全体でサポートしていきたいという思いで作っているものである。

委員：案内には、天候の急変のこととかは書いてあるのか。

事務局：天候の急変は載せていない。あくまでも犯罪に巻き込まれそうなときに駆け込める場所だよという意味として周知している。

委員：こどもサポート看板は掲示により、犯罪を一步手前で防ぐことを目的としている。小学校入学時の全家庭にお知らせを配布し、過去の事例を2、3件載せている。不審者につけられたので、看板のあるところに入って、そこにいる大人が出てきたら、不審者はどこかに行ってしまった、ケガをしたときに応急手当してくれたといったことも載せている。昼間、看板を設置している家に人がいなくても看板を貼っておくだけで犯罪の抑止になるし、さらに登下校時に家に人がいてくれるとさらに良い。地域柄もあるが、軒並み貼ったり、人が通らないところに貼ったりするのでは効果があるのかどうか。看板の設置に御協力いただけるのであれば、社会教育課に問い合わせいただくと、お住まいの地域のネットワークの人が説明にうかがう。質問のあった天候変化については記載していない。

委員：学校の立場からは不審者、犯罪のほかにも、雷などは子どもたちを帰宅させるかどうか気を使う。委員からの申し出が実現できるとありがたい。文面に書けるかどうかということはあるが、子どもたちの命を守るという事では、それはできないということにはならないと思う。雷などでもサポートできるといった気持ちをサポート会議で伝えていただけるとありがたい。

議長：社会教育と学校教育の具体的な接点であるが、看板に押しなべていろいろなことを書いてしまうとお引き受けいただくのは難しくなってしまうが、その辺のところは学校等との関係で相談していければよいのかなと思う。最近では地域と子どもたちが疎遠になりつつあるが、看板等のことを手掛かりにして、子どもたちと声を掛けあうとかあれば、登下校のパトロールを超えて、地域のい

い支えとなる方式になると思う。

基本目標 5

委員から意見なし。

イ 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策

資料「平成30年度暫定版 事業評価シートまとめ～教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策～」(計画第5章部分)に基づき、事務局から各事業における実績値(評価値)と次年度以降の方針等について説明を行った。

【質疑応答は次のとおり】

(8) ファミリー・サポート・センター事業(子育て援助活動事業)

委員：ファミリー・サポート事業の依頼会員の子どもを対象年齢を上げるのは、計画のニーズ量に対して実績が十分に届いていないからか。対象年齢を上げた来年度の見通しはどうか。

事務局：過去の実績からニーズ量を算出している。計画に掲載している推定値と実績値(推計値)に差があるが、支援会員が少ないから実績が少ないということではなく、依頼が少なかったことも要因と考えられる。支援会員が依頼会員を援助した件数の割合は、就学児童よりも未就学児童の方が多い。来年度、依頼会員の子どもを対象年齢の上限をおおむね9歳から小学6年生へ拡大するが、現在利用している小学3年生の子どもが、小学4年生になって引き続き利用するケースが多いのではないかと考えている。

議長：支援会員を増やす方向で努力を続けるということで良いか。

事務局：支援会員は増やしていきたいと考えている。

出席者：落合議長、黒田副議長、金田委員、新藤委員、鷲尾委員、吉野委員、山口委員、大山委員、岩崎委員、小島委員、佐瀬委員

傍聴者：なし

事務局：健康・こども部長、保育課長、保育課6人、こども家庭課1人、健康課1人、青少年課1人、教育総務課1人、学務課1人、教育指導課1人、社会教育課1人

以上